

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R3-14号)

令和3年10月20日
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和3年10月19日に伊勢湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

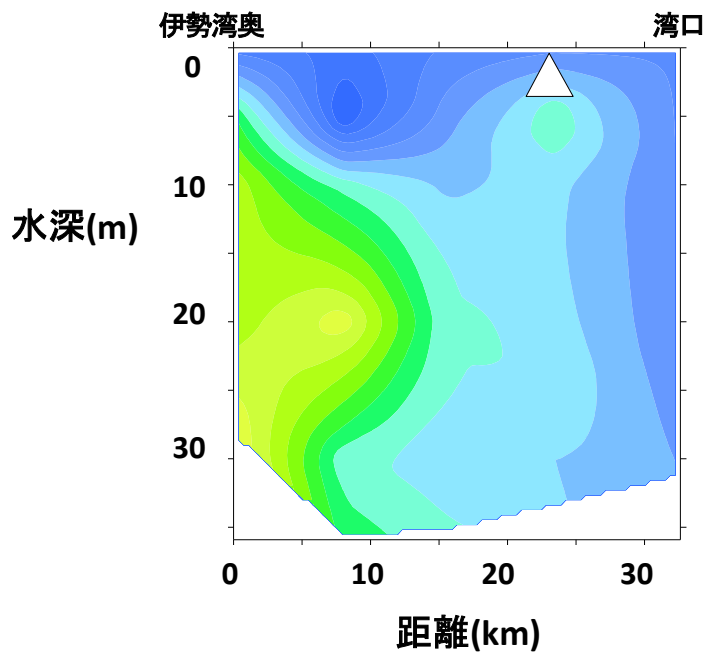
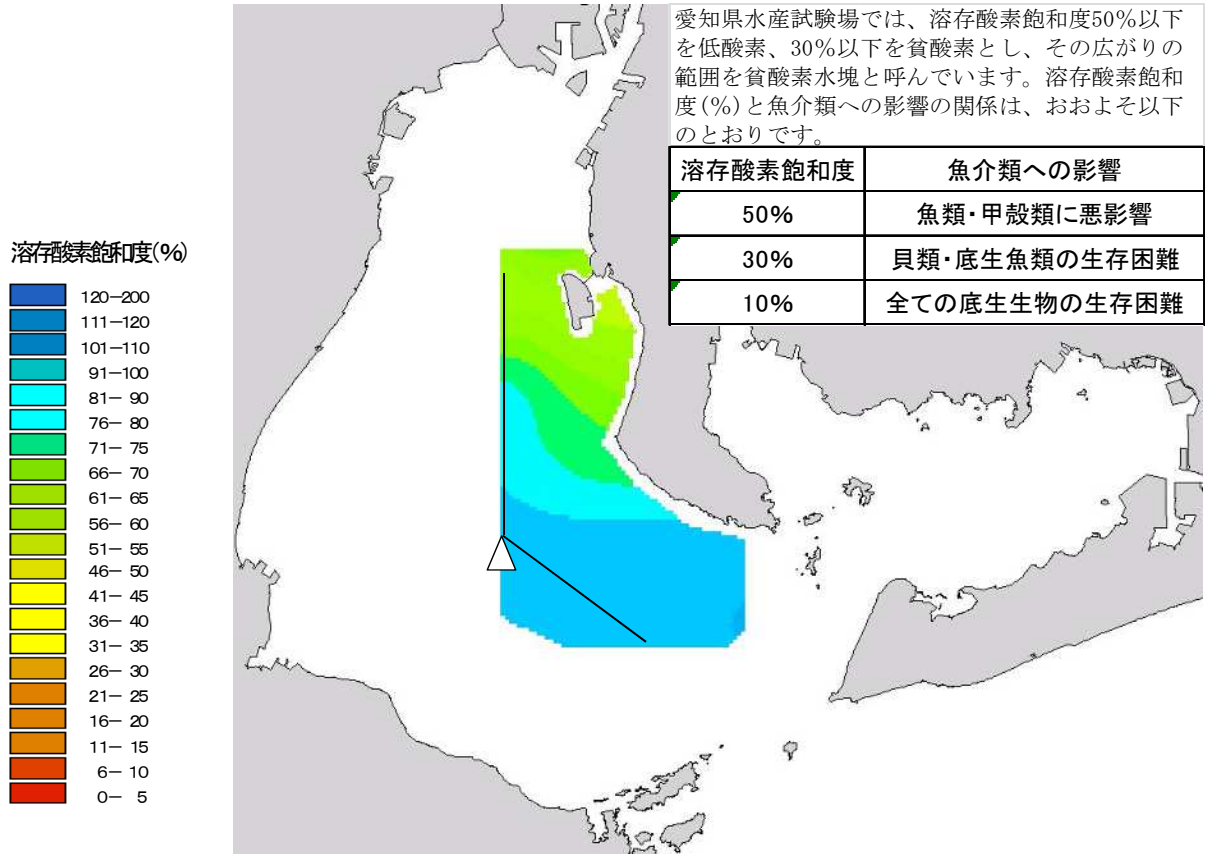


図1 伊勢湾 (10月19日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図)
(愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

10月19日の調査結果を図1に示しました。溶存酸素飽和度が30%以下の貧酸素水塊は確認されませんでした。鉛直断面図では、湾奥から湾央にかけて溶存酸素飽和度が40%台の水塊が見られます。

水温が低下し表底層の密度差が小さくなっていることから、海水の上下混合が起りやすい状況となっており、今後、貧酸素水塊が発達する可能性は低いと考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	22.2~23.7	28.1~31.4
底層	23.5~25.0	31.4~33.3

三河湾

三河湾海況自動観測ブイ（蒲郡沖、1号ブイ）のデータを見ると、10月上旬以降、貧酸素水塊は底層で一時的に確認されましたが、18日以降は確認されていません。

水温が低下し表底層の密度差が小さくなっていることから、海水の上下混合が起りやすい状況となっており、今後、貧酸素水塊が発達する可能性は低いと考えられます。

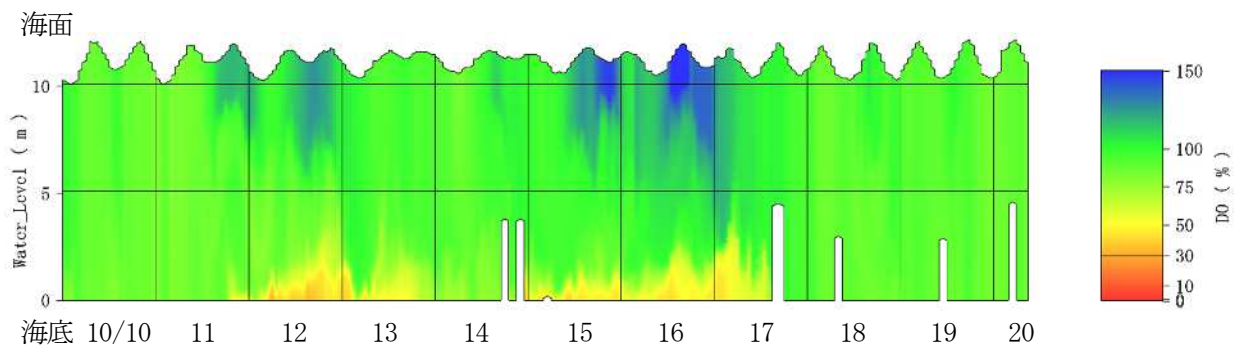


図2 溶存酸素飽和度 (DO) の継時変化 (三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前回調査時の伊勢湾、三河湾底層の溶存酸素状況

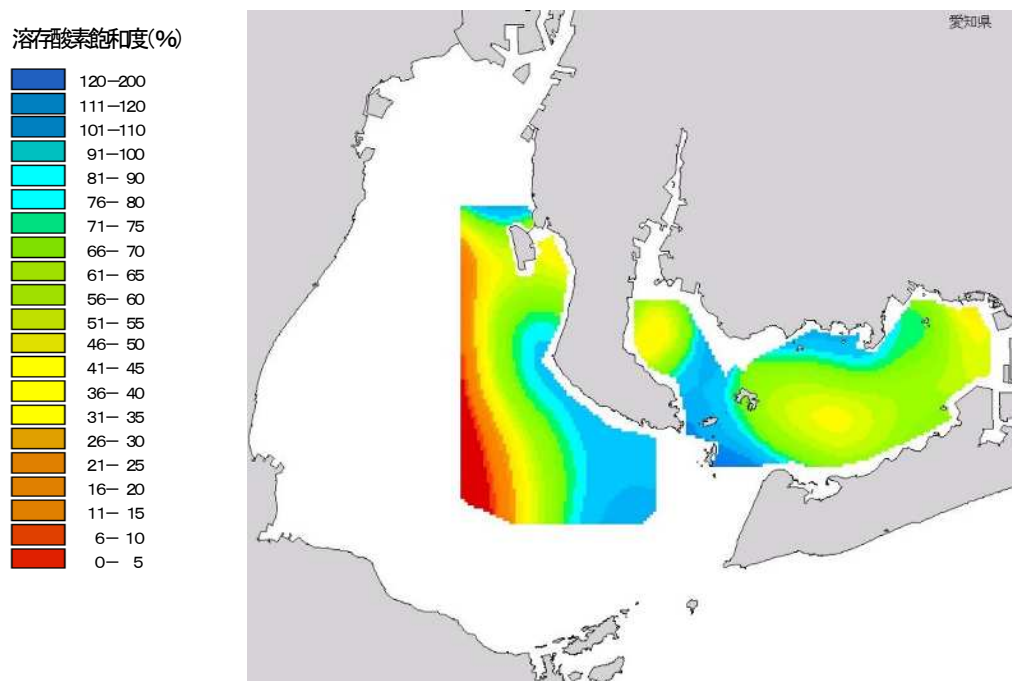


図3 伊勢湾 (10月4日)、三河湾 (10月5、6日)